

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	令和7年2月17日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170102442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170102442-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設以来看取りを行っている。近年病院ではなく住み慣れたホームでの看取りを希望される方も多く医療と連携を取りながら取り組むことができた。ホームでの療養が求められたり、災害支援、家族支援などホームに求められる役割も多岐にわたります。スタッフの資質、技能の向上が求められるようになっていなかで一人ひとりのケースを大切にすることができた。外国人スタッフの採用、スタッフの高齢化など働きやすい環境づくりも行うことができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、看護師及びケアマネジャーとして利用者の状態を把握し、介護計画の作成に携わりながら、運営全般にも取り組んでいる。事業所の敷地には、緑色の蒿とバラが植えてあり、春にはバラの香りを楽しむことができる。周辺には、小・中学校、公園やショッピングセンター、クリニックと調剤薬局等がある便利な環境となっており、利用者も時には職員との外出を楽しみながら、穏やかに過ごしている。経験豊かな職員が、5つの理念を胸に掲げ、利用者寄り添ったケアを実施している。また、事業所は、利用者と家族の思いや意向に寄り添いながら、看取り支援も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①一人一人のペースや自由を大切にする②住み慣れた暮らしに近い安らげる住まいや穏やかな雰囲気大切に③いつもの仲間やスタッフと一緒に暮らしの中でなじみの関係を築く④一人一人の残存能力を生かすケアを提供する⑤地域の人々や自然と触れ合いながら生活を送るを理念として掲げ事務所の見えるところにいつでも確認できるように掲示している。	職員は5つの理念に沿って、日々のケアを実施している。全職員で理念を唱和する機会は減ったが、年度初めやカンファレンス時に理念を確認している。目にしやすい場所に掲示しており、日々、理念の内容を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として近所のスーパーや喫茶店を利用していたがコロナ禍では交流がもてていない。スタッフはなじみのスーパーを使うなど引き続き交流を続けている。	重度化により、利用者が地域の一員として活動することは難しいが、職員が地域との付き合いを続けている。春の行事である「子ども神輿」が来訪した際には、利用者と交流することができている。短期大学の生徒の職業体験の場として、受け入れを行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とともにサービス計画を一緒に考えて話し合いをもてた。また外部評価結果についてはご家族にお知らせできた。	隔月に運営推進会議を開催し、サービス提供状況や行事、利用料金改定やBCPIについて報告を行っている。地域包括支援センター職員や家族代表、利用者代表、調剤薬局職員が出席している。今後、民生委員への呼びかけも検討している。	地域との協力関係を築けるよう、前回の課題でもあった、町内役員や民生委員等に運営推進会議への参加呼びかけを継続されたい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは介護保険課のみならず生活福祉課、地域包括センターなどともかかわりを持ちながら取り組むことができた。	利用者の介護度が年々高くなり、行政担当者に相談し、助言や指導を受けている。生活保護受給者も受け入れており、生活福祉課と連携しながら支援を続けるなど、行政と協力関係にある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。委員会の設置はあるが現在のところ実施した例はない。玄関の施錠については運営推進会議の議題に上げるなどして意見を交換している。また入居時には施錠についてご家族より同意をもらっている。	現在、拘束が必要な利用者はいない。定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、検討すべき事案について意見を交わしている。外部から講師を招き、研修も行っている。建物の構造上、安全のために玄関は施錠している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を新人研修含め実施することができた。またレポートを提出してもらい、レポートを読みあうなどその後のフォローアップも行っている。	身体拘束適正化委員会と同時に、虐待防止委員会も行っている。高齢者虐待防止のための指針をもとに身体拘束と虐待について話し合っている。職員のストレス回避方法や不適切ケア、事例検討を行いながら防止に努めている。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり担当の弁護士などと連絡を取りながら活用している。また必要と思われる利用者さんにはご家族に資源として紹介している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご家族ご本人に重要契約書を中心に説明し理解していただいている。十分に読むことができるよう事前にお渡しし時間をかけて読むことができる配慮をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け意見を伺う機会を設けている。またご家族へは面会時などになかなか来られないご家族へは電話などで状況を報告するなどし意見をいただく機会としている。	面会に訪れる家族だけでなく、遠方の家族、家族のいない利用者の後見人等があり、工夫をしながら、意見を聞く機会を設けている。家族への通信は発行していないが、今後、ホームページの制作を予定している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年9回あるカンファレンスには代表管理者が出席し職員の意見を聞くなどしている。また普段より職員とは日常的に意見交換しておりコミュニケーションをはかっている。	管理者は、日常的に職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞いている。また、職員の様子を見て、個別面談が必要と思われる場合は、管理者から声をかけ、意見や要望、目標の確認などを行っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	今年度は産休に入るスタッフがいたため就業規則の変更や体調に気遣ったシフトを組むなど職場環境を整えることができた。男性の育休を含めた職場環境づくりを行うことができ育休の取得もしてもらうことができた。	外国籍の3名を含めて、20代から70代までの職員が在籍している。女性職員だけでなく、男性職員の育児休暇、体調を崩した職員の病気休暇など、休暇を取得しやすくし、安心して働き続けられる職場環境造りに取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を設け各自の課題に沿った研修を行っている。研修に参加できるような休日を配慮するなど研修を受けやすい環境づくりを行っている。今年度は実践者研修への助成を行い介護福祉士へのキャリアアップを支援できた。	外部研修は年間の研修計画に沿って、職員全員が1回は受けられるようにしている。管理者が必要だと思う研修を個別に勧めることもある。今年度は実践者研修の助成、介護福祉士へのキャリアアップの支援を行っている。研修時間も勤務の一部と捉える研修もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会などの情報提供を行い同業者との交流する環境を整えている。特定技能のスタッフへは情報交換や相談できる機関との連携をとることができた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外国人スタッフと一緒に本を読んで日本語を教えてもらったり、懐かしい歌と一緒に楽しんだりと教えてもらう機会が多くある。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望をおたずねしながらまた困難な場合はご家族からお話を伺ったり今まで生きてきた生活史などを参考にしながら思いを把握している。ご自宅に帰りたいなどの希望がある場合などはご家族と相談しながら外泊や外出支援を行っている。	利用者一人ひとりの意向に沿った支援を行うために、家族から、本人のこれまでの生活歴等を聞き、参考にしている。また、勤務年数の長い職員からも利用者の希望や思いを聞いている。利用者が希望する外食、外出などは、家族の支援を受けている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方法については3か月ごとにモニタリングを行い修正している。カンファレンスでは全員で意見を出し合い目標の修正やケアの方法の見直しなどを行っている。	全職員が意見交換しながら、介護計画の目標を修正し、ケアの統一を図っている。モニタリングは3ヶ月ごとに行っている。ケアの見直しを行う際には、家族の意向や希望を聞き取り、カンファレンスで話し合っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。また課題に対する取り組み、結果をわかりやすく表記する工夫を行いすぐに記録できるようにしている。来年度はICTの導入を検討しており外国人スタッフなどわかりやすい記録へ変更予定。	職員の気づきと利用者の変化を見落とすことなく、申し送りノートに記載している。勤務前に目を通しサインをした上で、職員間で情報共有している。来年度は、外国籍の職員にも、わかりやすいICTの導入を検討している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望の美容院への送迎や、買い物支援など柔軟な対応を行っている。また家族に代行して病院付き添い、行政書類の代行などを行っている。	緊急時以外の病院受診の付き添いや、送迎等には、タクシーを手配し支援している。美容院への送迎や買い物支援も柔軟に対応し、行政書類の代行には職員が付き添っている。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も本人の希望や地域資源を考えて施設の変更なども考えていくことができた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは入居前の病院が継続してかかることのできるよう調整を行っている。また主治医を変更する場合には情報の共有などを行いスムーズに移行できるよう支援している。かかりつけ医とは20年以上関係を築いており良好な関係を築けている。	契約時に、かかりつけ医の継続ができることを説明している。協力医は月2回の往診があり、看取りも行っている。利用者の主治医との医療連携も適切に行いながら、夜間対応を含めて、利用者が安心して医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	骨折やがん治療など退院後ホームで継続して療養生活できるよう入院時より地域連携室と連携をとりながら情報交換を行ったりできた。また退院後には訪問看護を活用するなど関係機関との連携ができた。	入退院時の医療機関との対応は管理者が行っている。入院中は、病院関係者と情報交換を行い、退院後は、主治医からの指示を受けながら、訪問看護の活用や事業所でのリハビリ等、利用者の生活支援の継続に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時から看取りについての説明をしている。ご家族へはホームでできることリスクなども含め説明しご家族、本人、主治医と相談し支援を行っている。近年社会状況の変化から看取りを希望されるご家族も多くなってきている。	看取り指針を整備し、入居時に本人・家族に説明している。重度化した場合、家族の意向を確認し、協力医と訪問看護師の指示を仰ぎながら、ケアにあたっている。看護師及びケアマネジャーでもある管理者が講師として看取り研修を実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には応急手当などの訓練を行いイメージトレーニングなどを行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は今年度も4回実施した。水害の避難訓練、夜間を想定した訓練は2月後半に実施予定している。備蓄の食品の期限などの見直しも定期的に行うことができた。	BCPを作成し、定期的に防災訓練と研修を実施している。防災訓練、備蓄の管理、職員連絡網の確認を実施している。自家発電機があるが、電気コンロとガスコンロも準備している。ヘルメット、防災頭巾などは、家族と相談しながら用意するとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。とくに排せつに関してなど本人のプライバシーなどに気を付けて支援するなど留意している。今年度はマナー研修を行い気持ち良いコミュニケーションを目標に学習できた。	入浴やトイレ介助の際には、利用者から同性介助の希望が出た時は、希望に応じて対応している。職員全員が接遇研修を受講し、常に利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定できるよう本人の能力に合わせた働きかけを考慮し実施している。着替えの場面や食べたいものなど本人の能力に合わせて声掛けなどを行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に食事時間を配慮したり、食事の場所を選んでもらったりするなどその人の希望を大切にしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備において野菜の皮むきなどを一緒にしたりしながら楽しんでいる場面もある。温かい食べ物を温かく提供できるよう電子レンジを設置するなど配慮している。	職員が毎食、手作りの食事を提供している。利用者も、出来る範囲で食事の準備や食器片づけ等を共に行っている。ひな祭りには、ちらし寿司を用意するなど、行事にちなんだ献立で季節を楽しめるようにしている。おやつにホットケーキを焼くなど、甘い匂いで食欲をそそる工夫もしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた家庭食を手作りにて提供している。季節ものを大切にしている。またミキサー食やきざみ食など食事形態を工夫している。水分も定期的に補給してもらえるようにしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。また入れ歯の調整をもらったりと定期的に歯科往診をしていただき口腔内の清潔保持を行っている。	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔ケアにすることが習慣になっている利用者もある。介助が必要な利用者には、職員が介助をしている。義歯や歯ブラシの消毒も定期的に行っている。歯科医の往診もあり口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し定時ではなくその方にあった排せつケアを行っている。利尿剤や尿疾患なども把握しながらトイレでの排せつができるだけ行えるよう支援している。トイレの場所がわかるよう目印をつけるなど自立への支援を行っている。オムツの試供品にて心地よいオムツへの変更などを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	汚染があった場合などには曜日時間に関係なく清潔が保たれるよう支援している。一人一人の個別浴としている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息の支援を行っている。お昼寝の時間を確保したり、薬に頼らない入眠支援を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して一人一人の内服状況が把握できるようカルテの工夫を行っている。また誤薬のないよう何度もチェック項目を重ね事故の防止に努めている。薬の勉強会なども企画している。	看護師が配薬し、服薬支援は職員2名体制でチェックを行っている。利用者が確実に服薬したことを確認し、落薬や誤薬防止に努めている。薬のことでわからないことは、看護師に相談する事ができ、薬に関する研修も実施している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみなことを把握し気分転換が図れるよう工夫している。イベントなどを開催し習字やクイズ大会など楽しみを工夫している。またお花づくりが好きな方には庭の手入れなどをお任せしている。	習字やクイズ大会などは、全員が参加して気分転換できるよう支援している。また、新聞や週刊誌の購読、居室の清掃や花の水やりなど、一人ひとりが役割りをもって、楽しみながら生活できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら外食、外出支援を行っている。入居者さんの重度化やマンパワーのことから日常的には難しい状況がつづいている。	利用者の重度化や職員配置の難しさに伴い、日常的な外出支援は難しい状況である。庭先でお茶を飲んだり、草刈りなどは職員と一緒にやっている。今後は、花見などの外出支援計画を立て、家族にも外食・外出の協力を依頼している。	利用者の重度化だけでなく、職員の高齢化も勘案しながら、気分転換を図れるよう、様々な工夫が必要となっている。できる範囲で、利用者の外出支援実施に期待したい。

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族管理のことがほとんどであるが、能力に合わせた支援を行っている。スーパー、美容院への外出などでは本人管理できる場合には実施してもらうなど支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望などがあれば自由にできる環境を整えている。コロナ急増時にはオンライン面会を実施した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では不快とならないようにおいの工夫や温度、光などを留意している。また季節の花を飾るなど心地よく生活できるような配慮を行っている。常時換気を行いコロナ対策を実施している。感染対策として低圧換気システムを導入した。	2時間おきの換気及び、低圧換気システムで快適な環境作りを行なっている。1階の温室で植物観賞ができ、2階にはソファに座って、外の景色を眺めながら雑談を楽しめるスペースもある。居室も広く、写真や手作り作品を飾るなど、利用者が快適に暮らせる環境となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではリビングを中心に過ごせる居場所を提供している。2階では日当たりの良い場所にソファを置くなど心地居場所を提供している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今までの生活でなじみのあるものを使用しリラックスできる空間づくりを行っている。家族の写真を飾ったりカレンダー、風景の写真などを飾るなど安心できる環境づくりを考えている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようバリアフリーの室内とし安全に生活できるようにしている。またトイレの場所など混乱しないよう大きな文字にするなど工夫している		